

新たな一歩を応援！卒業生へ送る記念品

3/13

義務教育学校9年生へ卒業記念品が贈呈されました

ケーブルテクニカ株式会社は、地域貢献の一環として毎年、義務教育学校の卒業生全員に記念品を贈呈しています。

本年も黒田貴之代表取締役社長が、石原一則教育長へ町内2校の義務教育学校卒業生全員分の記念品を贈呈しました。

卒業生（9年生）に「各校の卒業生たちの全体写真が入った名前入りの写真立て」と「ヒマワリの種」が贈られ、担任の先生を通じて手渡されました。受け取った卒業生たちは、思い出に残る記念品を受け取り、喜びの笑顔を見せていました。



黒田社長と石原教育長 贈呈された写真立てとヒマワリの種

10年間の感謝を込めて！

3/22

エコティかわねサクスフェスが開催されました

一般社団法人エコティかわねは、10年間にわたり川根本町のエコツーリズムの推進をしてきましたが、令和8年3月をもって解散しました。これまでの感謝の気持ちを届けるべく、旧中川根第一小学校で「エコティかわねサクスフェス」が開催されました。

当日は、バードウォッチングやパン作り体験など、エコティかわねらしい楽しいプログラムがたくさん開催され、多くの参加者が満喫していました。

エコティかわねの会員として携わった方は「講師として参加し、県内外の方に川根本町の自然や文化を知ってもらえた機会だった」と活動を振り返りました。

今後のエコツーリズム推進は、川根本町まちづくり観光協会に引き継がれます。町民の皆さまには、引き続き関心をお寄せいただくと幸いです。



エコティかわね 芦沢 哲哉

エコティかわねは、地域の自然や歴史、文化、人々の魅力を生かしたさまざまなプログラムを通じて、多くのお客さまをお迎えしてきました。お客さまから「きれいな景色だね」「また川根本町に来たいな」といった温かい言葉や元気をいただき、幸せを感じた10年間でした。これからも皆さんの力でこの町を元気に盛り上げていきましょう。



- ① エコティかわねの会員らと集合写真
- ② 飯ごうでパン作り体験
- ③ 会場周辺でバードウォッチング
- ④ 羊毛で羊のマスコットを作成する体験

1年間の活動を報告

3/13

地域おこし協力隊4名による活動報告会が開催されました

地域おこし協力隊として活動している藤田昌永さん、芦沢博稔さん、松山征帆さん、高田大暉さんが、日頃の活動内容を町民らに向けて報告しました。

ロケツーリズム推進を担当している芦沢博稔さんは、令和7年に行われた2件のロケ受け入れについて紹介しました。撮影を通じてもたらされた経済効果や、今後の課題について説明しました。

他の協力隊員も、それぞれ担当する分野での活動成果や課題を発表しました。今後も住民と協力し、魅力ある地域づくりを進めていくことが期待されます。



住民や事業者の方からの質問に答える様子



第4号

0歳から18歳までの継ぎ目のない共育を実現させよう！

前回のおたよりで「22世紀を生きる子どもたちに必要な学び」についてお伝えしました。今回は、中でも特に注目されている「探究学習」について、シームレスな共育の視点から考えてみたいと思います。

なぜ「探究学習」が必要なのか

「探究学習」は、自ら課題を発見し解決していく力を育てます。課題に対して仮説を立てて検証し、情報を整理しながら結論を導く過程で、論理的に考える力が鍛えられます。また、自分の考えをプレゼンテーションやレポートで伝えることで表現力も向上します。さらに、教科の枠を越えて多様な知識を組み合わせることで、実生活の問題を解決する力も身に付きます。こうした力は、変化の激しい未来社会をたくましく生き抜くために、とても大切です。

川根本町型探究学習とは何か



一般的に、「探究学習」とは子どもたちが自分の興味・関心から課題を見つけ、調査・研究・考察を行う活動です。しかし、川根本町で行っている「探究学習」はそれだけにとどまらず、そこから得た知見をもとに発信・提案したり行動したりすることを重視しています。

この写真は、2月に川根高校で行われた交流会の様子です。高校生が『鹿ん舞を多くの人に知ってもらうにはどうしたらいいか』という問いを立て、連携中学の生徒や地域の方に研究した成果を発表し、グループで意見交換を行いました。

こうした探究活動で育つ力は、認知能力（見える学力）だけではありません。地域や人とのつながりを大切に思う気持ちや、人に喜んでもらうことの楽しさといった、いわゆる非認知能力（見えない学力）も育つのです。

川根本町教育委員会 教育長 石原一則

ご意見ご感想をお聞かせください。

E-mail : k-ishihara@town.kawanehon.lg.jp